

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 03-061440

(43)Date of publication of application : 18.03.1991

(51)Int.Cl.

A21C 3/02

(21)Application number : 02-093832

(71)Applicant : WERNER & PFLEIDERER HATON
BV

(22)Date of filing : 09.04.1990

(72)Inventor : VAN DEN BERG THEODOOR H F
STEEGHS MATHIJS

(30)Priority

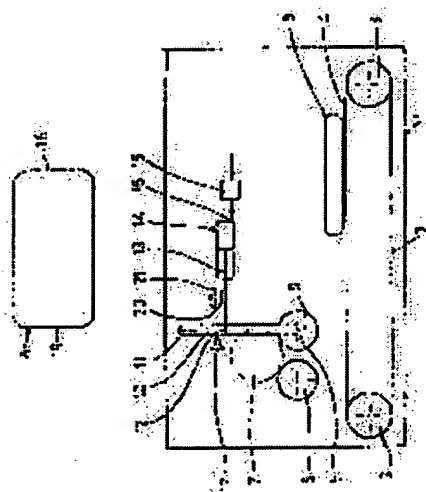
Priority number : 89 8900892 Priority date : 10.04.1989 Priority country : NL

(54) DEVICE FOR FLATLY STRETCHING LUMP OF BREAD DOUGH

(57)Abstract:

PURPOSE: To manufacture a sheet-like bread dough both terminal edges of which is straight by constituting a pressurizing means of at least one pressurized fluid cylinder and giving pressurized fluid to this fluid cylinder so as to give force nearly equal to residual force when the resistance of the bread dough varies.

CONSTITUTION: When the lump 7 of the bread dough is stretched, a roll 6 is pushed away some against the operating force of a pressurized fluid cylinder 14 to provide a straight front terminal edge 18 for the sheet-like bread dough 8. When the lump 7 of the nearly whole of the bread dough is stretched to be flat next, as the roll 6 is restrained at a prescribed position by preventing a piston rod from moving back, the roll is kept to be at the position through a sufficiently long period while the lump 7 of the bread dough 8 is stretched. Thereby the sheet-like dough 8 is also provided with a substantially straight rear terminal edge 19.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

公開実用平成 3-61440

⑨日本国特許庁(JP)

⑩実用新案出願公開

⑪公開実用新案公報(U) 平3-61440

⑫Int. Cl.⁺

識別記号

庁内整理番号

⑬公開 平成3年(1991)6月17日

B 80 N 2/42
2/107049-3B
7049-3B

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全 頁)

⑭考案の名称 車両のシート

⑮実 題 平1-122504

⑯出 願 平1(1989)10月19日

⑰発 明 者	足 近 幸 二	東京都港区芝5丁目33番8号	三菱自動車工業株式会社内
⑱考 案 者	冠 木 正 則	東京都港区芝5丁目33番8号	三菱自動車工業株式会社内
⑲出 願 人	三菱自動車工業株式会 社	東京都港区芝5丁目33番8号	
⑳代 理 人	弁理士 長 門 保 二		

明 細 書

1. 考案の名称

車両のシート

2. 実用新案登録請求の範囲

ベースプレートに載置され後部が当該ベースプレートに軸支され、前部が上方向に回動可能なシートクッションと、前記ベースプレートとシートクッションとの間に配設され当該シートクッションの前部を上動させるチルトアップ機構と、前記ベースプレートに配設され前記チルトアップ機構を駆動するアクチュエータとを備えたことを特徴とする車両のシート。

3. 考案の詳細な説明

(産業上の利用分野)

本考案は、車両の急停止時等にシートベルト(安全ベルト)の拘束性を向上させる車両のシートに関する。

(従来技術及びその問題点)

車両のシートに装備されているシートベルトは、例えば、衝突事故発生時等に着座している乗員を

528

1 実開 3-61440

公開実用平成 3—61440

シートに拘束して、車両内部に激突するいわゆる二次衝突を防止している。

ところで、車両のシートは、適度な弾性力を有するパッド部材を備えており、乗心地が確保されている。このため、車両の急停車例えば、衝突時等において、シートベルトに拘束された乗員の下半身がシートクッションのパッド部材をつぶしながらシートベルトの腰ベルトの下を前方にもぐり込む、いわゆるサブマリン現象が発生する虞れがあるという問題があった。

本考案は上述の問題点を解決するためになされたもので、車両の急停止時において、サブマリン現象の防止を図り、シートベルトの拘束性を向上させる車両のシートを提供することを目的とする。

(課題を解決するための手段)

上記目的を達成するために本考案によれば、ベースプレートに載置され後部が当該ベースプレートに軸支され、前部が上方向に回動可能なシートクッションと、前記ベースプレートとシートクッションとの間に配設され当該シートクッションの

前部を上動させるチルトアップ機構と、前記ベースプレートに配設され前記チルトアップ機構を駆動するアクチュエータとを備えたことを特徴とする車両のシートが提供される。

(作用)

車両の急停車等の非常時に、アクチュエータが瞬時にチルトアップ機構を駆動して、シートクッションの前部を上動させる。シートクッションはその後部を中心として上方に回動して前部を瞬時に持ち上げる。これにより、サブマリン現象が防止される。

(実施例)

以下本考案の一実施例を添付図面に基づいて詳述する。

第1図及び第2図は本考案を適用した車両のシートを示し、シートのシートクッション1は、車両の床面に並設固定されたロアレール3、3上に滑動可能に配設されたアッパレール4、4の上面に固着されたベースプレート5上に、ヒンジ機構6(第1図)及びチルトアップ機構7を介して成

公開実用平成 3—61440

置されている。

シートクッション1は、ボトムプレート8（第2図）上にパッド部材、表皮部材（共に図示せず）等を重合させて構成されている。

ヒンジ機構6は、ブラケット9及びシャフト10等より構成され、ブラケット9は、ベースプレート5の一侧縁後部に立設され、その上部には軸孔が穿設されている。シャフト10は、シートクッション1の後部に車幅方向に沿って配設され、その一端をシートクッション1の側部より突出させて前記ブラケット9の軸孔に、ベアリング11を介して嵌合されている。これによりシートクッション1は、後端がベースプレート5に回動自在に軸支され、シートクッション1の前部1aを持ち上げることが可能とされる。

チルトアップ機構7は、シャフト12、火薬式パイロ13及び一对のラック14等より構成されている。シャフト12の略中央部には回転ブーリー15が固定されており、また、両端部には後述する各ラック14に噛合するピニオンギヤ16が固

53i

定されている。シャフト12はプレート5の前部上方に車幅方向に沿って配置され、ベースプレート5に立設された一対のブラケット17、17により回転自在に支持されている。即ち、各ブラケット17の上部には軸孔17aが穿設されており、当該各軸孔17aにシャフト12が貫通している。そして、この各軸孔17aとシャフト12間にはそれぞれベアリング18が介在されている。

火薬式パイロ13はシャフト12を回転させるアクチュエータで、ベースプレート5の前端に配設されている。この火薬式パイロ13は、シリンダ内にピストンが収納され、当該シリンダの基端には、火薬室が設けられており、車両の衝突を検知するセンサ（図示せず）からの信号で着火する構成になっている。前記ピストンの基端にはワイヤ23の一端が連結されており、当該ワイヤ23の他端は後方に延出し、回転プーリ15に巻き付け固定されている。

各ラック14は縦長のリング状をなし、シートクッション1の前部1aの上動に対応するように

公開実用平成 3—61440

彎曲した形状とされており、各下端がボトムプレート 8 の前端両側部に立設固定されている。各ラック 14 の内面の一側例えば、前側には、第 3 図に示すように、ピニオンギヤ 16 に噛合する歯 14a が刻設されている。そしてこのラック 14 は、通常時において歯 14a の上部にピニオンギヤ 16 が噛合されている（図中実線位置）。

以下作用を説明する。

前記センサにより例えば、車両の衝突が検出されると、火薬式パイロ 13 の火薬室内の炸薬が爆発し、これにより発生したガスでピストンが瞬時に移動し、ワイヤ 23 を介して回転プーリ 15 を第 1 図中矢印 C で示す方向に回転させる。これに伴ないシャフト 12 が同方向に回転して、ピニオンギヤ 16 を回転させる。

このピニオンギヤ 16 の回転により、ラック 14 がボトムプレート 8 と共に上動（第 3 図中 2 点鎖線）する。この結果、シートクッション 1 がヒンジ機構 6 のシャフト 10 を中心として矢印 C 方向に回動し、当該シートクッション 1 の前部 1a が持

ち上げられる。

シャフト10、12はベアリング11、18により軸支されているために極めてスムーズに回転し、シートクッション1の前部1aは、瞬時に持ち上げられる。

(考案の効果)

以上説明したように本考案によれば、ベースプレートに載置され後部が当該ベースプレートに軸支され、前部が上方向に回動可能なシートクッションと、前記ベースプレートとシートクッションとの間に配設され当該シートクッションの前部を上動させるチルトアップ機構と、前記ベースプレートに配設され前記チルトアップ機構を駆動するアクチュエータとを備えたので、車両の急停車時において、瞬時にシートクッションの前部を持ち上げることができ、この結果、いわゆるサブマリン現象の発生を防止してシートベルトの拘束性を向上させることができるという優れた効果がある。

4. 図面の簡単な説明

第1図は本考案を適用した車両のシートの一実

公開実用平成 3—61440

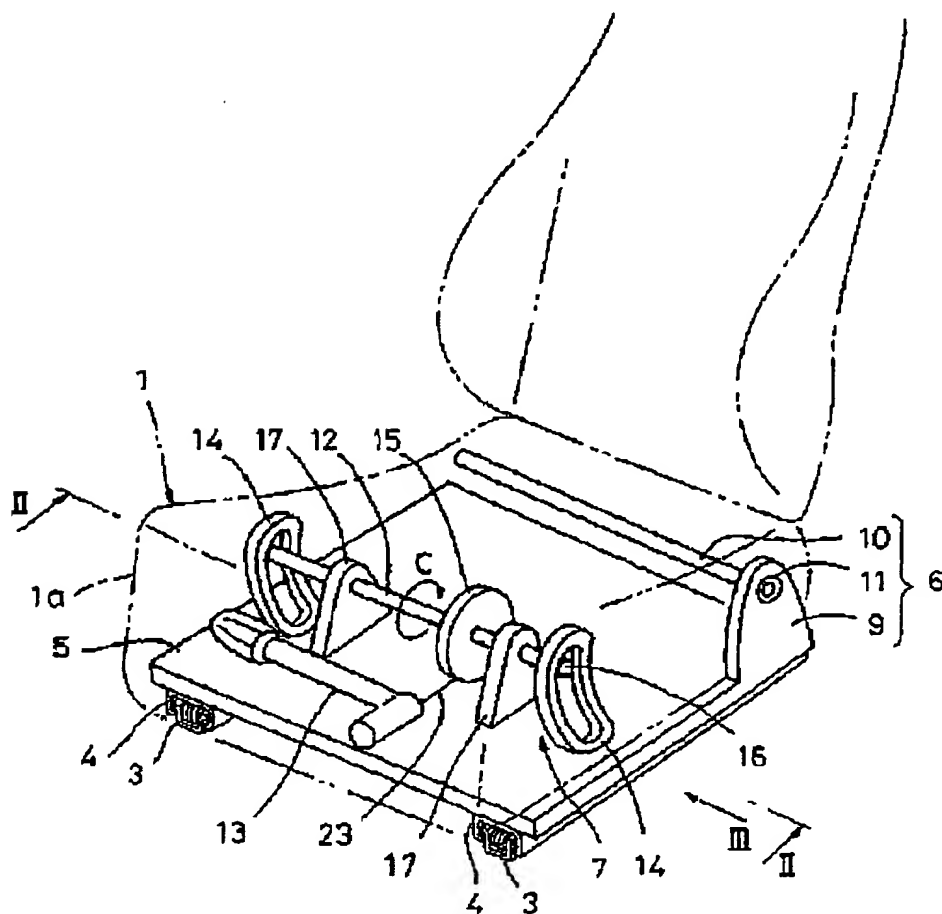
施例を示す要部斜視図、第2図は第1図の矢線Ⅱ—Ⅱ線に沿う断面図、第3図は第1図の矢印Ⅲ方向から見たラックとピニオンとの噛合状態を示す図である。

1…シートクッション、6…ヒンジ機構、7…チルトアップ機構、12…シャフト、13…火薬式パイロ、14…ラック、16…ピニオンギヤ、23…ワイヤ。

出願人 三菱自動車工業株式会社

代理人 弁理士 長 門 侃 二

第 1 図

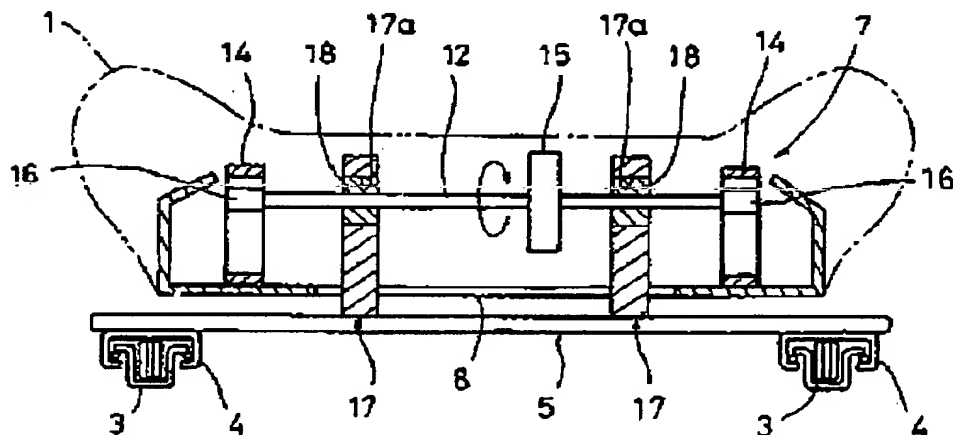


536 実開 3-51140

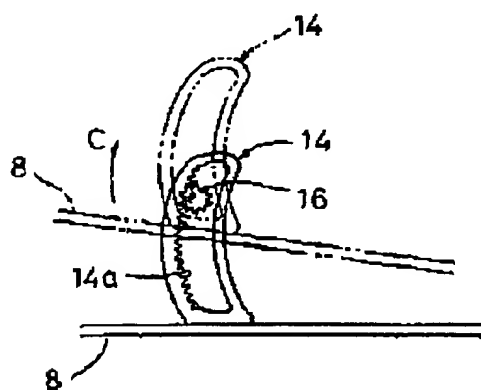
代理人 弁理士 長門 侃二

公開実用平成 3-61440

第 2 図



第 3 図



537

代理人 弁理士 長門 侃二